

## 補講: 文法用語の復習

前回 (授業第 8 回) のアンケートにもとづき、文法用語の復習を行う。英文法と共通の事項、高校までに英語を学んで知っていて当然と思われる事項についても、あらためて解説しておく (便宜的に、英語はイタリックで表記する)。

### 1. 英文法の復習 (ドイツ語の授業を受けるに際して必要なもの)

#### 1-1. 品詞

◇ **動詞、形容詞、副詞、名詞、代名詞、前置詞、接続詞、冠詞...**、といったあたりはさすがに理解していると思うので、ここでは省略。

◇ 動詞のうち、

- ・目的語 (後述) を必要としないもの: **自動詞**

(例) *Money talks.*

*The sun rises in the east.*

- ・目的語を必要とするもの: **他動詞** (ほぼ「...を~する」の意味)

(例) *He loves his wife.*

◇ 一方、自動詞のうち、

- ・補語 (後述) を必要としないもの: 完全自動詞 (上記 2 例文)
- ・補語を必要とするもの: **不完全自動詞**

(例) *He is a student.*

・不完全自動詞のパターンは決まっており、「~である」のような状態、「~になる」のような状態変化、「~に見える、聞こえる...」のような感覚の 3 つがそれに相当する。*be, remain, become, seem, look* など。

◇ 名詞を修飾するのが形容詞、動詞や形容詞を修飾するのが副詞である。その場合、

- ・形容詞に *-ly* をつけると副詞になるのが普通: *happy* → *happily*
- ・形容詞と副詞がまったくの別形である場合もある: *good* → *well*

#### 1-2. 文の要素

◇ 文の要素は、**主語 (S)**、**動詞 (V)**、**目的語 (O)**、**補語 (C)** である。主語についてはさすがに省略、動詞については品詞で登場したものと同一。

◇ 目的語は、動詞の動作の対象を表す語で、名詞を使用する。

- ・基本的に「~を」に相当する。

(例) *He loves his wife.*

・一方、「~に」に相当する**間接目的語 (IO)**、「~を」に相当する**直接目的語 (DO)** の両方をとる動詞も存在する (いわゆる第 4 文型の場合)。

(例) *He gave his son a watch.*

IO DO

- ◇ 補語は、主語の属性を補う語で、名詞か形容詞。不完全自動詞 (上述) は補語を要する。  
(例) *He is a student.*  
*She remains happy.*  
\* 目的語の属性を補う補語もある (いわゆる第 5 文型の場合) が、ここでは省略。

## 2. ドイツ語の文法用語のまとめ (これまで登場したもの)

### 2-1. 品詞

- ◇ 基本的に英語と同じ理解でよい。  
◇ 動詞に関しては、  
・英語でいう原形 (辞書に載っているかたち) のことを**不定詞**という。  
・他動詞とは、4 格目的語をとる動詞 (後述) という意味。ほかは自動詞とされる。  
・「不完全自動詞」はあまり使用せず。「述語内容語 (後述) をとる動詞」などと言う。  
◇ 形容詞をそのまま副詞として使用可能。

### 2-2. 文の要素と格 (以下、第 4 回配付資料 S. 4 も参照)

- ◇ 主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O) に関しては英語と同じ理解でよい。一方、「補語」という語は使わず、**述語内容語**や述語補足語と言う。  
◇ 主語は必ず 1 格。  
(例) *Der Arzt kauft einen Sportwagen.* その医師はスポーツカーを買う。  
◇ 述語内容語も名詞の場合は必ず 1 格 (形容詞の場合もある)。述語内容語をとる動詞のうち既出のものは、sein (～である), werden (～になる), heißen (～と呼ばれる)。  
(例) *Das ist ein Tisch. Der Tisch ist groß.* それは机である。その机は大きい。  
◇ 目的語には、**4 格目的語**と**3 格目的語**がある。  
・単に「目的語」というときは 4 格目的語のことであると考えてよい。  
(例) *Der Arzt kauft einen Sportwagen.*  
・ただし、間接目的語 (～に) と直接目的語 (～を) を両方とる他動詞の場合、間接目的語の方は 3 格目的語、直接目的語の方を 4 格目的語とする。  
(例) *Er gibt dem Kellner das Trinkgeld.* 彼はウェイターにチップを与える。  
(3 格) (4 格)  
・また、3 格目的語だけをとる特殊な動詞が存在する。既出では gehören (〈3 格〉に属する), helfen (〈3 格〉を助ける), begegnen (〈3 格〉に出会う)。  
(例) *Das Fahrrad gehört einem Kind.* その自転車はある子供のものである。  
・他動詞=4 格目的語をとる動詞なので、3 格目的語だけをとる特殊な動詞は自動詞。  
◇ **2 格**は「～の」という所有を表し、英語の of ～ のように後置修飾する。前置詞 (3 格支配) の von で代用してもよい。  
(例) *Sie liest einen Brief ihres Vaters.* 彼女は父の手紙を読む。  
*Sie liest einen Brief von ihrem Vater.* 同上